

【研究課題名】

時間分割解析を用いた二核銅酵素チロシナーゼの反応機構の解明

【各研究項目の連携状況】

1. ①ラマンスペクトルの測定, ②小倉尚志 (A04), ③無 (投稿準備中)
2. ①X線自由電子レーザーを用いた時間分割構造解析, ②井上豪 (A04), ③無
3. ①計算機科学を用いた反応機構の解析, ②吉澤一成 (A04), ③無
4. ①赤外吸収スペクトルを用いた二核銅形成機構の解析, ②廣田俊 (A04), ③無 (投稿準備中)

【原著論文】

1. F Higashikawa, M Noda, T Awaya, N Danshiitsoodol, Y Matoba, T Kumagai, *M Sugiyama, “Anti-Obesity Effect of *Pediococcus pentosaceus* LP28 on Overweight Subjects: a Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Clinical Trial,” *Eur. J. Clin. Nutr.*, **70**, 582-587 (2016).
2. *Y Matoba, T Yoshida, H Izuhara-Kihara, M Noda, M Sugiyama, “Crystallographic and Mutational Analyses of Cystathionine β -Synthase in the H₂S-synthetic Gene Cluster in *Lactobacillus plantarum*,” *Protein Sci.*, **26**, 763-783 (2017).

【総説・解説】

1. 的場 康幸, “非天然型アミノ酸 D-サイクロセリン生合成酵素の結晶構造,” *バイオサイエンスとインダストリー*, **74**, 510-513, (2016).

【共同研究推進事業について】

2016年6月10日：A04班の小倉尚志教授研究室でラマンスペクトルを測定した。

2016年9月1日～2日：A04班の井上豪教授研究室でX線回折強度を測定した。

2016年12月27日～28日：A04班の小倉尚志教授研究室でラマンスペクトルを測定した。

【若手研究者間の取り組みについて】

2016年12月12日～13日：第4回若手国際シンポジウムで研究成果を発表した。